

有縁の皆さんでお読み下さい

寺院とは、立派な屋根のある建物ではなく、サンガである。

あなたの「生きる」を支えるお寺

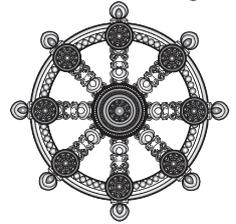
毎月 25 日発行 しょう しき しょう こう

お寺のかわら版

じゆんしょうじほう

純正寺報

青色青光 No.340



発行責任者：浄土真宗本願寺派 護法山 純正寺 住職 釋 覚恵 (漢見覚恵)

〒 522-0075 滋賀県彦根市佐和町 3-29 TEL (0749)-22-7888 FAX (0749)-47-4829

メールアドレス :purity-temple.since1499@nifty.com

※この紋章は「法輪」といい、車の輪が回り続けるように未来に向かって永遠に弘められていく仏教を象徴した、世界中の仏教徒共通のシンボルです。

9月15日(日) 秋季彼岸会

仏教のお話

近江八幡市沖島町願證寺

本多昌道 師

午後一時半より
勤行『正信念仏偈』
法話二席

午前十時より
勤行『仏説阿弥陀經』
法話二席

お昼にお弁当が必要な方は、午前
の法要前に受付で実費(五百円)を
添えてお申し込みください。

9月25日(水) 10:00~12:00 13:30~15:30

こんき常例布教 法話 甲賀市嚴浄寺 森 直道 師

YouTube 純正寺チャンネル



LINE 純正寺公式アカウント



純正寺公式ホームページ



facebook 常朝事チャンネル



純正寺の法要は「YouTube」で、常朝事は「facebooklive」で、それぞれ生配信でも録画でもご参拝・お聴聞いただけます。

住職法話

我聞如星

寺院は建物にあらずサンガなり

新しい僧侶の誕生に思う

寺院はサンガ

寺院と聞くと、屋根が立派にそびえる建物や荘厳な内装を連想することが多いかも知れませんが、それよりもはるかに大切なことは、寺院は「サンガ」であるということなのです。

「サンガ」とは、仏教における三つの宝である「仏・法・僧」の中の「僧」、僧伽のことです。すなわち、同じ教えをよりどころにして生きる人の和、同朋（仲間）のことです。そして、この同一信仰の人の集まりを「門徒」と呼びます。なのに、寺院の印象が建物や装飾の方に持たれがちなのは、私たちが教えに対して自覚的では無いからでは無いでしょうか。

私たちの宗派の僧侶は、多くは親や祖父母も僧侶や住職です。いわゆる「世襲」により僧侶になった人が多いのが現状です。そして、これは門徒にも同じように言えることです。

世襲が悪いとは言いませんが、教えに対する自覚的関わりに物足りなさを感じずにはいられません。寺院がサンガであるためには、まず教えとの自覚的関わりが欠かせないのです。

自覚的僧侶の誕生

八月八日、純正寺に新しい僧侶が誕生しました。法名を「釋明慧」、俗名は麻生佑来さんと言います。彼は、私の血縁者ではありません。また、寺院に生まれ育った

人でもありません。現在、彼は他県の医療系大学で事務職員をしています。

去年の十一月、彼は知り合いの僧侶に連れられて、純正寺に相談にやってきました。彼は、これまでの人生経験を通して、将来「終末期医療」の現場で「臨床宗教師」として働きたいという、熱い思いを語ってくれました。

しかし、臨床宗教師になるには僧侶でなければならず、僧侶になるためには所属寺院がなければなりません。そこで、純正寺の所属として得度することになったのです。正しく、明確な目的を持って得度した、自覚的僧侶の誕生です。

また、八月の歓喜会と物故者追弔会に法話を担当いただいた、法名釋值慧（俗名美馬ひろみ）さんも純正寺の所属僧侶の一人です。

彼女のお父さんは真宗寺院の門徒総代さんでした。お父さんは、その寺院の住職が行方不明になり、寺院施設が差し押さえになる中、寺院の復興のために僧侶になると決意されましたが、病のため往生されたのです。その意思を継いだのが娘である彼女でした。そして、僧侶になり布教使になって、全国にお念仏の輪を広げべく活動しています。皆さんのお家にある「Anカレンダー」は、彼女の作品です。二人の僧侶を観ていると、私たち僧侶や門徒は今、寺院はサンガという宗教の原点に、立ち返る必要があるのではないかと思うのです。



左から明慧・覚恵・値慧です

今年も元気に 子ども会サマー スクール開催！

毎年夏休み恒例の「ほとけの子ども会サマースクール」が、八月十九日(月)二十日(火)の一泊二日で、純正寺本堂を会場に開催されました。

今年の参加者は、保育園年長さんから中学校二年生までの男女十八名。コロナ感染症第十二波の中、体調を崩す子はなく申込者全員が当日を迎えました。



思い思いの絵付けをして、この世に一枚のお皿を作りました



そうめんもかまぼこも美味しい

十九日午後一時半からの開校式。「らいはいのうた」のお勤めの後、健康観察と日程説明を元気に聞いていた参加者の子ども達です。

午後二時からは、湖東焼きの先生を招いての陶芸教室でした。今年は、丸皿にクッキーの抜き型やスタンプを使っての絵付け。それぞれのお皿に、思い思いの絵を描きました。お皿が焼き上がる、九月が楽しみな子ども達です。

午後五時から「流しそうめん」での夕食です。少

し雨が降っていたので暑さもひどくありませんでした。ご門徒の井川良一さん制作の、本格的竹製流しそうめんです。立派な竹を流れてくる、そうめん、かまぼこ、ミニトマト、シャインマスカット、グミ、チョコレートなどに、歓声を上げながらお腹いっぱいになりました。

食後は、極楽湯へ銭湯体験です。色んなお風呂に浸かりながら、約一時間の入浴を楽しんだ子ども達でした。

本堂に帰った子ども達を待っていたのは巨大なスクリーン。学校や家庭のテレビでは観られない、仏教に基づいたアニメ映像を、子ども達はおやつを頬張りながら鑑賞しました。

初日最後のプログラムは、声を出さずに蝋燭の灯りのみで過ごす「キャンドルサービス」。住職による詩の朗読を聞きながら、静かに初日を振り返った子ども達でした。

二日目は、高揚感で眠れなかった子ども達も五時には起床。洗面・着替えを終えて布団を畳んだら、常朝事の会「護法会」のご門徒と共に、大きな声で「正信偈和讃」のお勤め。

お勤めの後はラジオ体操。朝食は、思い思いに作る「おむすび」です。塩むすびにゆかりおむすび。そぼろやおかか、シャケにツナマヨなど、色んな具を入れて楽しく食べました。

朝食後は、学習タイムで各自勉強。閉校式の後、午前九時には全員元気に解散となりました。

今年初参加の女の子は、そのお母さんも小学生の頃純正寺の子ども会で育ち、サマースクールにも参加していました。四半世紀以上もこのサマースクールを続けているのだと、体力の低下を実感しつつ、改めて感慨深い夏のひとときでした。



純正寺9月の皆の宗サンガ

サンガ(僧伽)とは、利害関係を超えた、互いに支え合う、安心できる本当の人のつながり「お念仏の家族」をあらわしています。純正寺のすべての活動は、あなたにも仏縁が整って、まことの同朋(とも)の出会いが広がっていくことを願い、運営されています。



今月のエコキャップ一、六六〇、三〇九個

危険な暑さになった八月は、皆さんから八、六八六個のペットボトルのキャップをお預かりしました。

キッズサンガ「ほとけの子ども会」

7日(土)・14日(土)
10:00~12:00
就学前・小・中学生対象

『らいはいのうた』のお勤めの後、仏典童話の読み聞かせと楽しい遊びタイムです。

ゆっくり学ぼう家「寺子屋」

23日(月)・29日(日)
16:00~18:00
小学生・中学生対象

教科書に沿った問題集や宿題、自主勉や読書に取り組みます。休憩時には、おやつもあり。

みんなの食堂ビハーラ

12日(木)・26日(木)
17:00~19:00
年齢・性別は問いません

子どもからお年寄りまで、誰でも参加できる楽しい食事と学習の時間。事前にお申し込みください。

世のなか安穏なれ「ビハーラ彦根」

15日(日)
18:00~20:00
年齢・性別は問いません

参拝者の提起や質問を手がかりに、車座になって聴き合いながら、ビハーラの心を学びます。

ヨガ風ストレッチ「びはーら体操」

10日(火)・24日(火)
10:20~11:30
年齢・性別は問いません

お香とインド音楽の中でのヨガ風ストレッチで、強くて柔らかな身体と心を作りましょう

「月例法話座談会」

17日(火)
14:00~16:00
年齢・性別は問いません
日常の「何故？」を通して、お念仏に生きる尊さと確かさを座談会形式で感じ学びます。

暑さ寒さも「秋季彼岸会」

15日(日) 10:00~15:30
年齢性別は問いません

真西に沈む太陽に、私の確かな命の行方をお浄土といたたく日。ご法話は、近江八幡市願證寺の本多昌道師です。

みんな法友こんき常例布教

25日(水)
10:00~12:00.13:30~15:30
年齢・性別などは問いません

所属寺の枠を超えて、法の朋ができる法座です。ご法話は、甲賀市嚴浄寺の森直道師です。

清々しい朝のおつとめ「常朝事」

年中毎朝 6:00~6:50
年齢・性別など問いません
『正信念仏偈』と『和讃』の繰り読み。『御文章』の拝読と住職の法話があります。Facebookでライブ配信もしています。

住職が聴きます「よろず相談」

随時、年齢性別は問いません
生きることが辛くなる前に、早めに気軽にご相談下さい。
相談予約専用電話番号は、090-7874-2849
相談予約専用メールアドレスはnamo-yorozu@docomo.ne.jp

お知らせ

本堂横の道路の拡張工事が、十一月にかけて引き続き行われています。その影響で、純正寺周辺の道路は複雑な自動車の通り方になっておりますので、自家用車・自転車・徒歩で参拝のご門徒様は、運転には充分お気を付けてください。また、参拝者用の二ヶ所の駐車場が満車の際は、市民会館跡の有料駐車場をご利用ください。